

〈様式2〉

## 令和5年度 体力向上における各校の成果(小学校)

坂井市

教育委員会

No	学校名		成 果
1	三国南	小学校	児童の目標となる学習カードを作成したことや業間活動を継続的に実践したので、児童の体力向上につながった。 ※全国平均値を越えたものが、24項目中(8種目×3学年)20項目であった。
2	三国北	小学校	5月実施の「マラソントライアル」から10月実施の「マラソン大会」までに1秒以上タイムアップをした児童は約75%いた。目標をもって練習に取り組むことで、タイムアップの成果につながったと思われる。4、5、6年生の男女ともに、「握力」の記録が全国平均を上回っていた。毎日のグーパー体操の成果が出ていると思われる。
3	雄島	小学校	学校評価において「体育の授業に真剣に取り組む、業間や昼休みに進んで外で遊んでいる」の問いに対して、約90%の児童が肯定的な回答をしている。 体力テストでは、どの学年もほとんどの種目で全国の平均値を超えることができた。
4	加戸	小学校	休み時間に積極的に体育館やグラウンドで遊ぼうとする児童が増えた。特に冬期のなわとびは、体育館や廊下ですすんで練習に取り組む姿が見られた。シャトルランの回数は、男子は9ポイント、女子は1ポイント程度の向上が見られた。
5	三国西	小学校	学校評価の「運動する楽しさを感じている」と答えた児童が95パーセントと昨年度よりも向上した。 休み時間、積極的に外に出て運動する児童が多くみられた。
6	平章	小学校	豊富な運動量を確保できるような授業づくりや体育的行事(運動会やマラソン大会など)を実施した。5年生では「リズムダンスふれあいコンクール」に参加し、全国大会に出場するなど、自分たちの体育の活動を広く知ってもらえる機会にもなった。毎月、基本的な生活習慣や心の健康状態、ネット利用について自己チェックする期間(しろの子チェック)を設け、健康的な生活の意識づけを図った。
7	長畝	小学校	積極的にICTを取り入れ、考えたことを記録していくことや児童同士で動画撮影をし、動きを分析することで、考える体育を実現することができ、体育の学習に対する意欲を高めることができた。業間運動やなわとび板や鉄棒の設置、体育委員会による企画などで、運動と関わる時間や機会を設けることができた。そのことが、学校評価において「運動に興味・関心を持ち、体力向上に努めている」と答える保護者、児童の割合が目標値を上回ることの要因として考えられる。 昨年度から年間を通して学習の前に上体起こしに取り組んできた結果、どの学年のTスコアも50を大きく上回っている。また、本年度からは投運動(紙風船、めんこ)も行ってきた。その結果、男子は5年生が、女子は全ての学年でTスコア50を上回ることができた。
8	高棕	小学校	【児童へのアンケートの結果】運動をすることが楽しいと感じている児童…96%(昨年度95%) 児童は、体育の時間や休み時間に積極的に運動に取り組む、体を動かすことを楽しんでいる姿が多く見られた。 業間運動のマラソンやなわとび等で、自己の成長を目指して、めあてをもって運動に取り組む姿が多く見られた。
9	鳴鹿	小学校	マラソンの業間運動では、学年の目標周数を走っている児童は全体の94%であった。 保護者アンケートでは、子どもが運動に親しんでいると肯定的に回答する方の割合が84%であった。

10	磯部	小学校	<p>【体育の授業】 めあてをもたせて学習を進めることができた。体育部で作成した学習カードを活用して授業を進めることができた。学習したことを記録し、ふり返りと次時のめあてを書くことで児童自身が成長を実感したり、自ら意欲的に運動に親しもうとしたりする記述が見られた。また、様々な場を作ったことは、意欲的に運動に取り組み、運動量の増加につながった。 タブレットを使い、自分自身の運動動作の確認や手本動画を視聴することで、自分や友達の課題を把握し、解決していこうとする学習につなげることができた。 体育館に鉄棒を設置したことにより休み時間にも意欲的に鉄棒に触れ活動する子どもの様子が見られた。 プールでの水泳が実施できた。児童が楽しんで学習する様子が見られた。</p> <p>【特別活動】 運動会は体育の学習の成果を生かすことができた。運動会の準備を進める中で協力することや責任を果たすことの大切さを実感する良い機会とすることができた。 自然に親しむ活動ができた。安全に気をつけながら楽しんで活動する様子が見られた。 あそびんピックは昨年と同様、様々な施設や遊具を活用して遊ぶ児童がみられた。カードの半数以上スタンプを押せた児童は190人(45%)であった。項目全てにスタンプを押せた児童は54人であった。(全校児童424人)年々増加している。</p>
11	明章	小学校	<p>マラソンカードやなわとびカードを利用して、授業や休み時間で積極的に体を動かす児童の様子が見られた。マラソン大会やなわとび大会を全校で行うことで他学年の活躍や頑張りを見せたり、見たりする機会を設ける事ができた。講演を通じて家庭での運動することの呼びかけを行うことができた。</p>
12	春江	小学校	<p>コロナ禍で制限していた活動を緩やかに再開できたことは大きな成果だと感じている。運動会では全校種目や声を出しての応援合戦を行った。また、秋には低・中・高学年ごとにマラソン記録会を行った。記録会に向けて練習を頑張る児童の姿が多く見られた。保護者からの反響も大きかった。</p>
13	春江西	小学校	<p>パワフルタイムの実施や、外遊びをするよう呼びかけたことで、休み時間によく体を動かす遊びをした児童は83%となり、目標の80%より高くなった。</p>
14	大石	小学校	<p>タブレットの有効活用、学習カードを工夫したことで、児童の94%が運動に意欲的に取り組んだと回答した。 地域スポーツに親しんだことで、坂井地区ディスクドッジ大会で上位に入賞することができた。</p>
15	春江東	小学校	<p>授業の導入では、アナログ動作やサーキットトレーニングを多く取り入れたことで、児童が楽しみながら積極的に運動に取り組むことができた。また、気づきメモを活用したことで、児童同士が工夫した点や友達の良い動きを気軽に記入し、見合うことで深い学びに繋がった。休み時間では、意欲的になわ跳びや鉄棒練習、外遊びなどで体を動かす姿が多く見られた。その結果、跳躍力や柔軟性、筋持久力が全国平均を上回った。</p>
16	東十郷	小学校	<p>ティーボールやフラッグフットボールなどの投げる運動を体育に取り入れたことで、4・5・6年のボール投げの記録が、全国および県平均を大きく上回った。昨年度から継続している運動を好きになってもらえるようなイベントの実施や動画作成の効果もあり、運動を好きと答える児童の割合がどの学年でも70%を越えた。</p>
17	大関	小学校	<p>マラソン大会やなわとび大会に向けた活動では、学習カードを使い主体的に練習に取り組む姿が見られた。 器械運動では、児童がタブレットを使って演技の様子を撮影した。自分の課題に気づいたり、新たな課題を設定したり、友達と教えあったりする姿が見られ、その気づきをもとに、さらに技の完成度を高めようと進んで練習に取り組んでいた。</p>
18	兵庫	小学校	<p>縦割り班で、なわとびの教え合いの時間を設けたり、業間活動の記録用紙を配付したりするなどして、意欲的に運動する児童の育成を目指した。学校評価では、体力づくりを最後までがんばることができたと答える児童が多かった。また、体育行事での縦割り交流の様子は、大変活気にあふれていた。</p>
19	木部	小学校	<p>学校評価アンケートにて88.1%の児童が「マラソン練習に一生懸命取り組んだ」と、肯定的な回答だった。秋季マラソン記録会で、半数近くの児童が春季マラソン記録会の記録を更新することができた。体育の授業や業間活動の中で、教え合いや話し合いの場を設け、自分から積極的に言葉がけしていくように働きかけたことにより、上級生が下級生に教える姿、同学年同士で声をかけ合う姿が多く見られ、共に体力作りに励もうとする意欲が高まった。</p>